

紅葉が一段と色を増す季節となりました。本日はご多忙中にもかかわらず、多くのご来賓の皆様方をお招きし、本校創立40周年記念式典を開催できますことを心からうれしく思います。

「環境教育」「地域連携教育」「国際理解教育」を3つの柱として教育活動を行ってきた本校の歩みを振り返ってみますと、まず平成24年に、兵庫県では県立高校初の「ユネスコスクール」に認証され、近年では当たり前となっている SDGs の活動をどこよりも早く教育の根幹に据え、世界の人々や環境、将来世代にまで視野を広げ、地球を構成する一員としての自覚と使命感を持った人材の育成に努めてきました。現在は1万人を超える卒業生が多方面で活躍しています

具体的には、平成28年度からユニクロとの共同事業である“届けよう服のチカラ”プロジェクトに参加し、世界の難民キャンプの子供たちに、生徒や地域の方々から着用しなくなった子ども服を集め寄付してきました。その活動は全国的に認められ、“届けよう服のチカラ”アワード 2018 最優秀賞を受賞し、表彰されました。現在も、この活動は継続しており、毎年 5000 着以上の子供服を贈ることができています。その他、「緑が丘駅前清掃」や、現時点で 70 万個を回収した「ペットボトルキャップ回収・リサイクル」の取組み、「グリーンカーテン(ゴーヤファンド)」による ECO 対策、東日本大震災で被災した宮城県「志津川高校とのボランティア・交流」事業も、昨年で10周年を迎えました。

また、新型コロナウイルスの影響により中断しています Drouin Secondary College との隔年ホームステイによる交流の代わりとして、Zoom で交流を行いました。さらには、兵庫県在住の外国出身の方をお招きして、異文化交流会を開催することで国際交流を図ってきました。特に、地域の方々から持ち寄っていただいた多くのランドセルを、日本に住む外国籍の子どもたちに、三木市、小野市の国際交流協会を通じて寄贈した活動は、地域の方々と連携し、環境教育、国際理解教育を実践できた取組みであったと自負しています。

以上のような本校の活動は、三木市様や、青山、緑が丘を中心とする地域、近隣の企業、教育機関等のご支援・ご理解・ご協力あればこそ実現できた教育活動です。心から感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

しかしながら、少子化、高齢化の影響等により、かつては各学年10クラス以上の規模を誇った本校も、現在は各学年3クラス規模となり、部活動数の削減、行事の小規模化など、各生徒や保護者、地域のニーズに十分応えることが困難になりつつあります。

その現状を打破するために、10年後、20年後を見据え、令和7年に、本校は、三木東高校と吉川高校と3校で統合することになりました。三木で生まれ育った子供たちが、三木で学べるように特色化・魅力化を図るのは三木の高校としての責任です。この発展的統合により、3校の良き伝統と特色をしっかりと受け継いだ、時代の流れや周囲のニーズに応えることができる新しい学校が誕生することになります。今後は、統合校3校が協力して、三木の高校としての責務をしっかりと果たしていかなければならないと考えています。

とはいうものの、この度の発展的統合により4年後の令和八年度の卒業生を最後に三木北高校の生徒はいなくなります。本校で学び青春時代を過ごした同窓生の方々、や本校が面する大通り脇の歩道から時には厳しく、しかしいつも愛情に満ちあふれた視線で、子供たちを見守り成長させてくださいました青山、緑が丘の地域の方々、歴代校長先生をはじめとする本校を大切に守って来られた先生方など、本校関係者の方々には、現校長として申し訳なく思います。到底ご容赦いただけることではないとは思いますが、三木北高校としての残りの4年間で三木北高校らしく、精一杯教育活動に励んでいきたいと考えています。三木北高校最後の一日まで「人と環境の三木

北」として、これまで本校の教育に携わってこられた方々の思いを込めて、皆様の記憶に永久に留めていただけるよう教育活動に邁進していきたいと考えています。今後の三木北高校、さらには、本校の流れを汲む統合校の活躍にご期待くださいますようお願いいたします。

令和四年十一月十二日

校長 田中 良季